

ペダルティンパニ

PEDAL TIMPANI

PEDALPAUKE

TIMBALE À PÉDALE

TIMBAL DE PEDAL

ЛИТАВРЫ ПЕДАЛЬНЫЕ

踏板式定音鼓

페달 팀파니



# TP3100(EA) Series

TP3123(EA) / TP3126(EA) / TP3129(EA) / TP3132(EA)

取扱説明書

Owner's Manual

Bedienungsanleitung

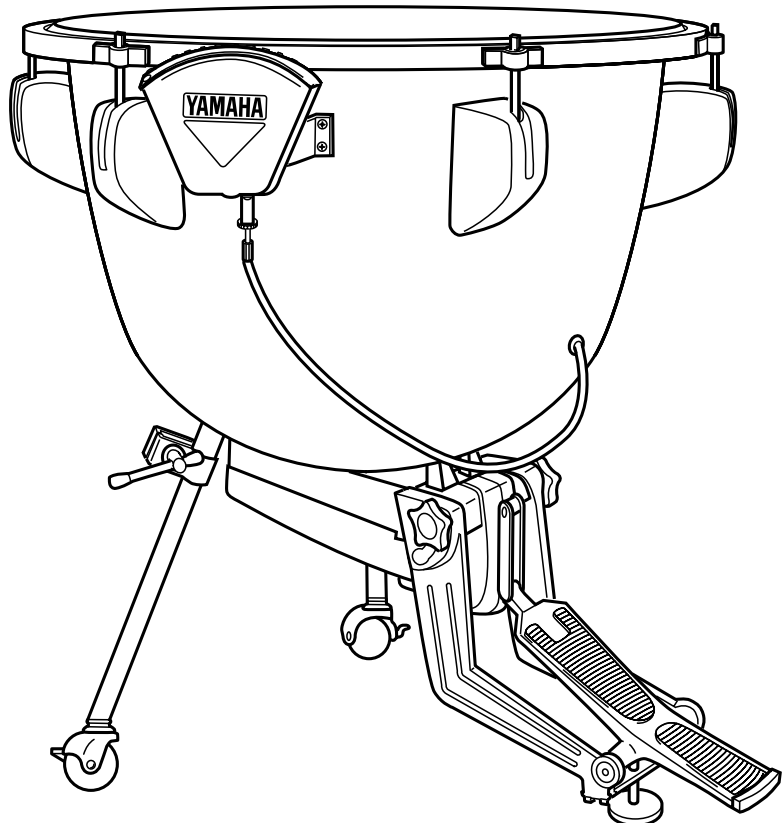
Mode d'emploi

Manual de instrucciones

Руководство по эксплуатации

用戶手冊

사용설명서



日本語

English

Deutsch

Français

Español

Русский

中文

한글

# 安全へのこころがけ

## ティンパニを安全にご利用いただくためのご注意




ティンパニはご家庭や学校内で、お子様から専門家まで幅広い方々にご愛用いただいております。  
室内での置き場所や日常の取り扱いについて、  
安全にご利用いただくため、下記の注意を必ず守ってください。  
特に小さなお子様には、最初にご家族の方、または指導者から取り扱い方法を指導してください。





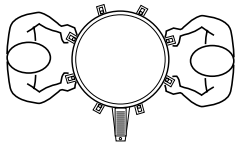




### 人身侵害の危険を防止するには



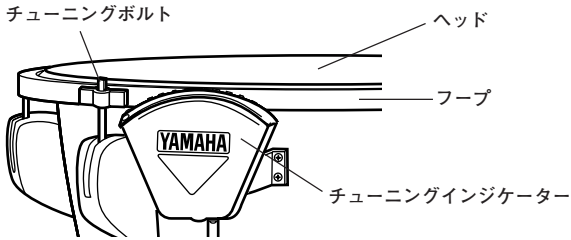



～以下の指示を必ず守ってください～

絵表示について

この「安全のこころがけ」は製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を使って説明しています。  
絵表示の意味をよく理解してから、本文をお読みください。

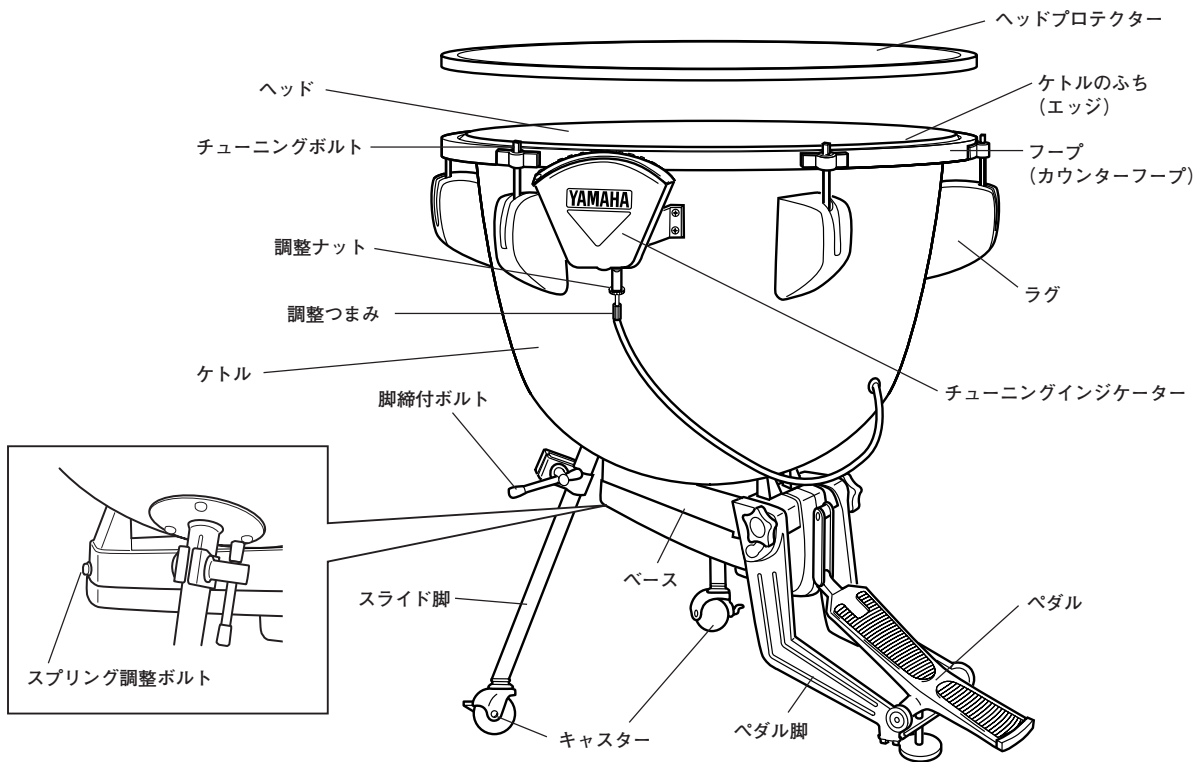
-  注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。
-  禁止行為を告げるものです。
-  行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

 <b>警告</b> この絵表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡又は重傷を負う危険の恐れがある内容を示しています。	
 ティンパニを使用する前に、以下の指示と取扱説明書をよく読んでください。	 キャスターを利用してのティンパニの移動は、滑らかな平坦面でのみ行なってください。キャスターを利用して移動する時には <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 傾いた所や凹凸のある道、じゃり道は避けてください。</li> <li>2. 走らないでください。楽器が止まらなくなると、壁にぶつかるなどして大けがをすることがあります。</li> </ol>  ティンパニは重量物です。持ち上げて運ぶ際は、必ず2人以上で行なってください。ペダルティンパニの場合は、必ずラグを持ってください。 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>
 楽器をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。	
 楽器にもたれかかったり、乗ったりしないでください。楽器が倒れて大けがをすることがあります。	
 楽器のまわりで遊ばないでください。身体をぶつけてけがをすることがあります。楽器の転倒の原因にもなります。お子様が楽器のまわりで遊ばないように注意してください。	
 ペダルティンパニのペダルの下やベース部分のすきま、可動部分には、絶対に手や足を入れないでください。ペダルにはさまれて大けがをすることがあります。	

 <b>注意</b> この絵表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、財産が損害を受ける危険の恐れがある内容を示しています。	
 ペダルやハンドルの操作中に、フープ、ヘッド、チューニングインジケーターに手を触れないでください。はさまれてけがをすることがあります。 <div style="margin-top: 10px;">  </div>	 破れたヘッドはすみやかに交換してください。ヘッドの破れ目は鋭利ですから、手などを切る危険があります。   ティンパニの内部(チューニングインジケーター、ベース、ラグなどの内部)に手を触れないでください。   マレットは演奏目的以外には使用しないでください。けがや事故の原因となります。お子様が人の身体をたたくなど、危険な行為をしないように注意してください。

# 各部の名称&注油箇所

## ■各部の名称



### その他付属品

- ・チューニングキー 1個
- ・マレット 1組
- ・六角レンチ 1本
- ・スプリング調整レンチ 1本

### ⚠ 危険

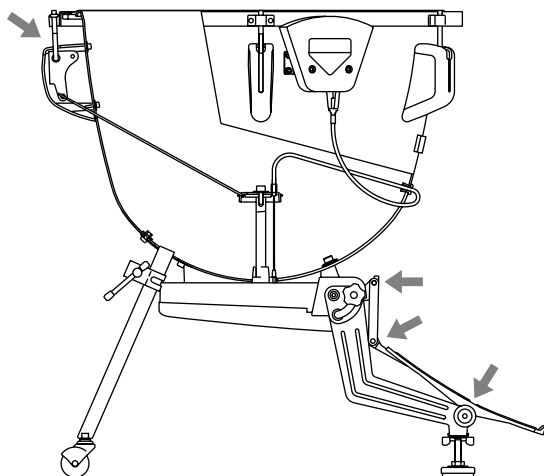
ペダルの下やベース部分のすきま、可動部分には、絶対に手や足を入れないでください。  
ペダルにはさまれて大けがをすることがあります。

## ■注油箇所

年に1回は右図矢印の箇所に良質なグリスまたは潤滑油等を注油してください。

※ スプレー式の潤滑油をおすすめします。

※ 注油箇所には直接手を触れないでください。



# ティンパニの移動と設置

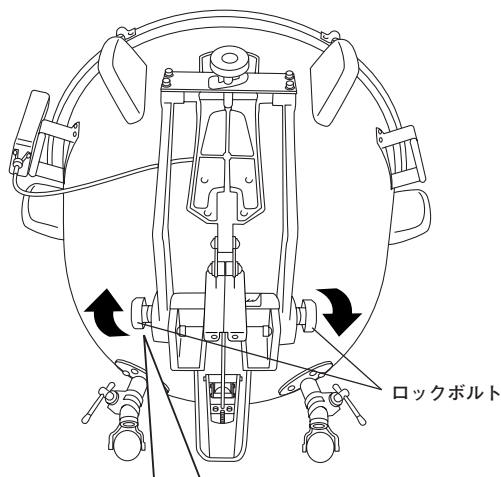
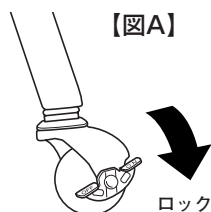
## ■設置方法

TP-3100シリーズは保管・移動スペースを省くため、コンパクトに折り畳むことができます。設置/収納の際には、下記の手順に従って作業を行なってください。

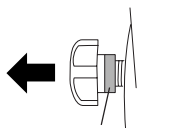
### ⚠ 危険

ペダルの下やベース部分のすきま、可動部分には、絶対に手や足を入れないでください。ペダルにはさまれて大けがをすることがあります。

- 1** まずキャスターをロックしてください。【図A】次に楽器を下図のように置き、両手でロックボルト左右をゆるめます。このとき、ロックボルトの銀色の部分が完全にガイド穴から出るまでゆるめてください。【図B】

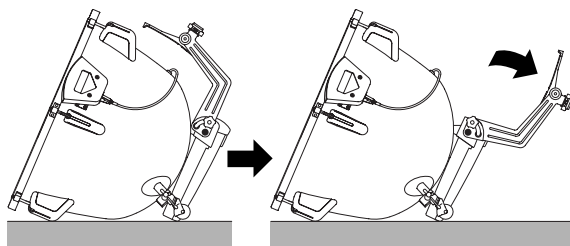


【図B】

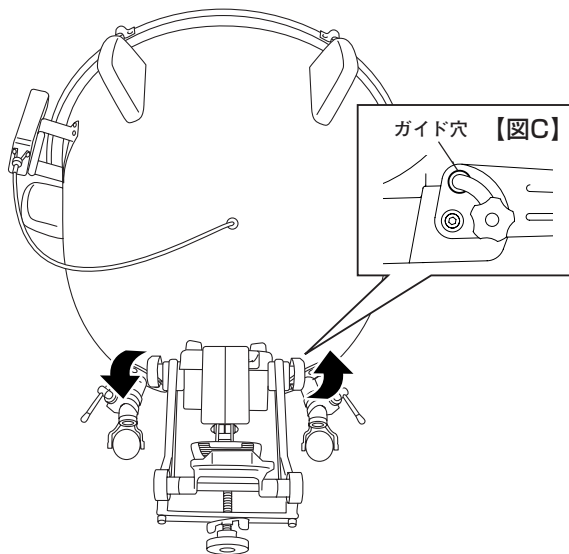


この部分が完全に  
見える  
までゆるめる

- 2** ペダルユニット部を静かに下げます。

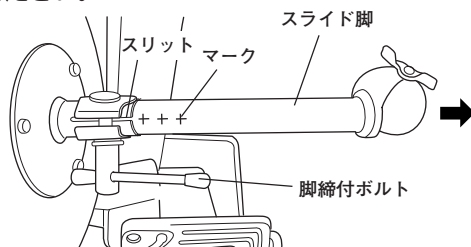


- 3** 【図C】のガイド穴にロックボルトの銀色の部分【図B】がはまる位置までペダルユニットを下げ、ロックボルトを締め付けます。ロックボルトの銀色の部分【図B】が完全にガイド穴にかくれるまで締めてください。



- 4** 楽器を横向きにし、脚締付ボルトをゆるめます。

- 5** スライド脚をゆっくり伸ばし、適当な長さで脚締付ボルトを締めます。このとき、スライド脚のマークと脚締付金具のスリットを合わせてください。このポジションが合っていないとキャスターが機能しないことがありますので、必ず合わせてください。



6 楽器の逆側の面を上にし、もう一方のスライド脚を伸ばし、固定します。このとき、スライド脚のマークと脚締付金具のスリットを必ず合わせてください。

7 楽器を起こし、左右の脚の長さを調整します。

8 楽器の収納は、設置と逆の手順で行なってください。

## 危険

ペダルを折り畳む際、ペダルとケトルの間に手を挟まないように注意してください。ペダルにはさまれて大けがをすることがあります。

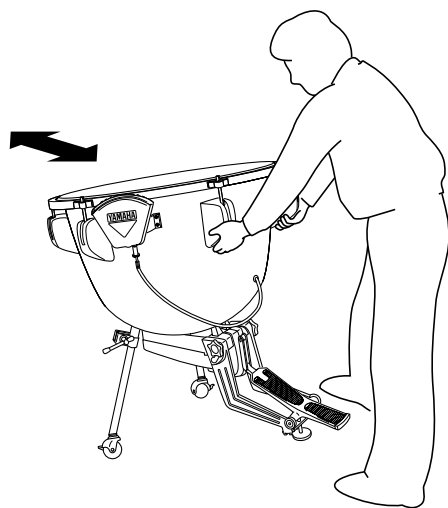
## 移動

部屋を移るなど長い距離を移動するときは、必ず2人以上で持ち上げて運んでください。

平坦な床の上でセット替え等数メートル程度の短い距離を移動するときは、スライド脚のキャスターが便利です。移動の際は、キャスターのロックを外してから、下図のようにラグを持ってペダル脚のフレームを床面から少し浮かせた状態で前方にゆっくりと押すか、手前にゆっくりと引いてください。

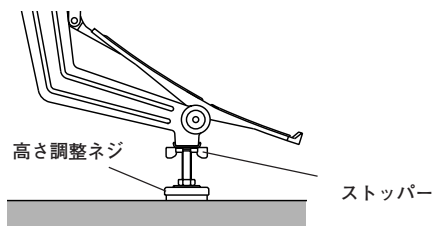
その際、足に衝撃を加えないようにご注意ください。

※ 高い所から落下させたり倒したりすると、破損するおそれがあります。



## ペダル高さ調節

ペダル下にあるストッパーをゆるめ、高さ調整ネジで高さを調整します。高さが決まったら、ストッパーを締めて固定します。



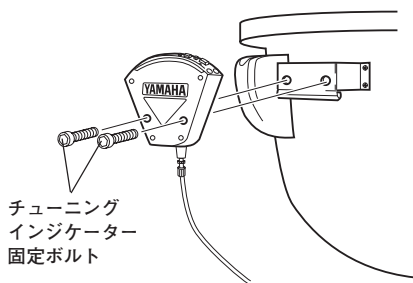
## チューニングインジケータの付け変え方

出荷時、チューニングのインジケータはユニバーサルタイプ(奏者の左手側)にセットされていますが、ジャーマンタイプ(奏者の右手側)にセットしなおすことができます。

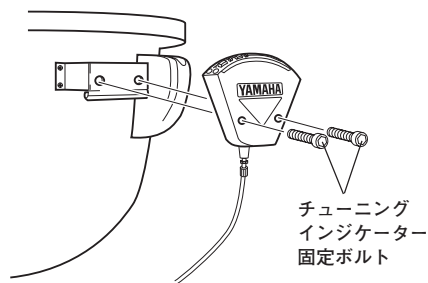
下図の様にチューニングインジケータ固定ボルト2本を付属の六角レンチで外し、インジケータの逆の面から固定ボルトを差しこんで反対側の取付金具に付け替えます。

いずれの場合も、インジケータ上面の音名指示駒が正しく見える向きに取り付けてください。

【ユニバーサルタイプの場合】



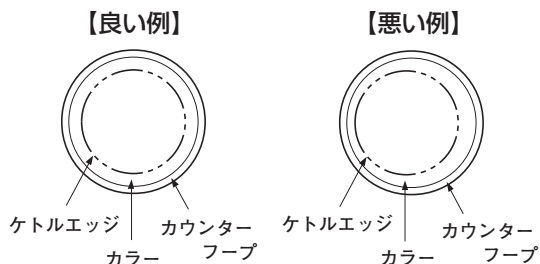
【ジャーマンタイプの場合】



# ペダルティンパニをお使いになる前に

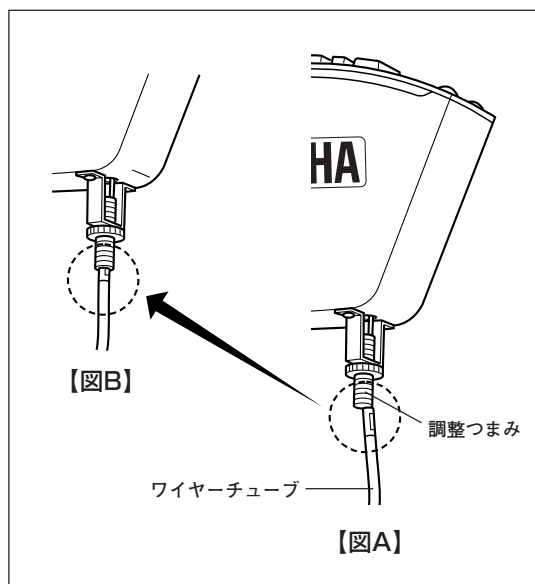
ヤマハペダルティンパニは、ヘッドがチューニング(ある音程を出すように張ること)され、すぐにでも使用できる状態に調整されて工場より出荷されます。しかし新しいヘッドのフィルムは伸びやすいので、お客様のお手元に届くまでの間にチューニングや調整の状態が変わってしまいます。以下の手順に従って、伸びたヘッドを工場出荷時と同じ状態に再び張っていただければ、ペダルティンパニは正しく調整された状態でご使用いただけるようになります。

- 1** ケトルのふち(エッジ)と、カウンターフープの内周との間の部分を“カラー”と呼びます。下図の【良い例】のように、このカラーの幅がどこも同じであることを確認してください。



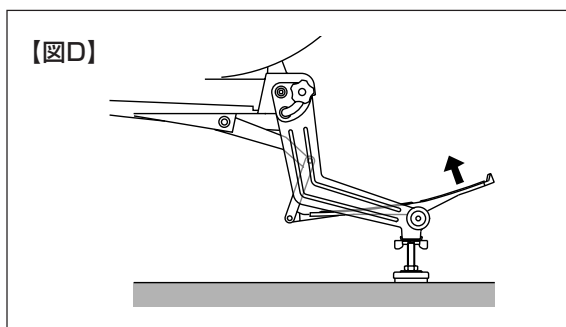
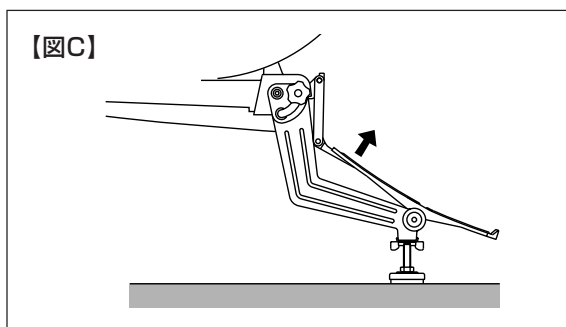
上図の【悪い例】のようにになっている場合は、【図C】のように、ペダルのかかと部分を一杯まで踏み下げたまま、ヘッドとフープを【良い例】のような位置に動かします。

- 2** チューニングインジケーターの調整つまみから、ワイヤーチューブの先が【図A】のようにとび出していないかを確認します。とび出している場合は、ワイヤーチューブの先を調整つまみの中に収めてください。【図B】



- 3** ペダルのかかと部分が【図C】のように下いっぱいまで踏み下げられたまま止まっていたら、手順5へ進みます。

【図D】のようになっていたり、ペダルのかかと部分が下いっぱいまで下がっている場合は手順4へ進みます。

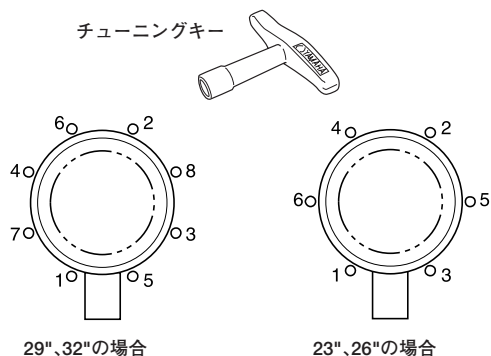


## ⚠ 危険

ペダルの下やベース部分のすきま、可動部分には、絶対に手や足を入れないでください。ペダルにはさまれて大けがをすることがあります。

- 4** ペダルのかかと部分を【図C】のように下いっぱいまで踏み下げます。ペダルのかかとは逆に上がる(戻ろう)としますが、そのまま足を離さずにしてください。

- 5** 付属のチューニングキーを使って、チューニングボルトを下図の順番に1/4回転(90度)ずつ締めていきます。チューニングボルトは、同じ量ずつ締めることが重要です。



- 6** ペダルから足を離してください。

- まだペダルのかかと部分が上がってくる場合  
→ 手順**4**から**6**を繰り返します。
- ペダルのかかと部分が踏み下がったままになっている場合  
→ 手順**7**へ進みます。

- 7** ペダルに足を乗せて、ペダルを往復(つま先いっぱいまで下げた後、かかと部分をいっぱいまで下げる)させます。

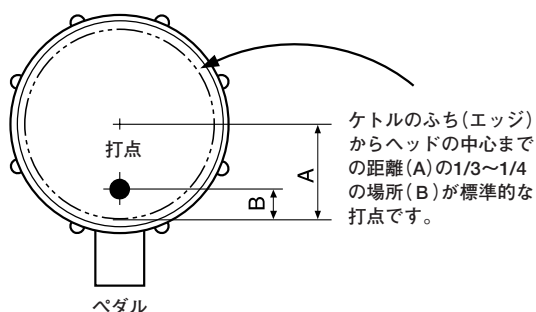
- ペダルをつま先を踏み下げるのと、かかとを踏み下げるのが均等の力に感じる場合  
→ 手順**9**へ進みます。
- ペダルをつま先を踏み下げるのにくらべて、かかとを踏み下げる方が軽く感じる場合(※1)  
→ ヘッドの締めすぎです。ヘッドをゆるめてください。まず、ペダルのかかとを踏み下げたまま足を離さずに、チューニングボルトの1本を1/2回転ゆるめた後1/4回転締めます。他のチューニングボルトでも同じように手順**5**と同じ順番でそれぞれゆるめていきます。締めすぎの状態が改善されるまでこれを繰り返します。  
→ 手順**9**へ進みます。
- ペダルをつま先を踏み下げるのにくらべて、かかとを踏み下げる方が重く感じる場合  
→ ヘッドの締めが完全ではありません。手順**8**以降の作業を行なってください。

- 8** ペダルのかかと部分を【図C】のようにいっぱいまで踏み下げます。  
チューニングボルトを手順**5**と同じ順番で、1/8回転(45度)ずつ締めていきます。  
→ 手順**7**の作業を行ない、確認を行ないます。

- 9** ペダルのかかと部分とつま先部分の両方を6ページの【図D】のように浮かせた状態にし、足を離します。ペダルがそのまま動かないかどうか確認してください。

- ペダルが静止していれば完了です。6ページの【図C】の位置にペダルを戻してください。
- ペダルをつま先が下がるようにペダルが動く場合  
→ ヘッドの締めすぎです。手順**7**(※1)の方法でヘッドをゆるめてください。

- 10** 付属のマレット等で、ヘッドを軽くたたいてみましょう。打点(たたく位置)は下図の通りです。



音程はピアノ音と比べるとわかりやすいです。ペダルをつま先部分を踏み下げてからたたくと、音が高くなります。

さらに正確な音程を合わせたい場合は、次ページの『ティンパニの音程の合わせかた』をご覧ください。

### ⚠ 注意

ご使用後もヘッドは伸びていきますので、時々手順**7**以下の調整をしてください。

# ティンパニの音程の合わせかた

未使用(入荷されたまま)のペダルティンパニをお使いになる場合は、必ず最初に6~7ページの『ペダルティンパニをお使いになる前に』の手順に従って調整を行なってください。

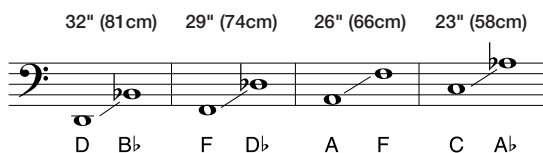
## ■ヘッドのチューニング\*(\*ある音程をだすためにヘッドを張ること)

**1** チューニングはティンパニの最低音に対して行ないます。

足でペダルのかかと部分を下いっばいまで踏み下げておきます。

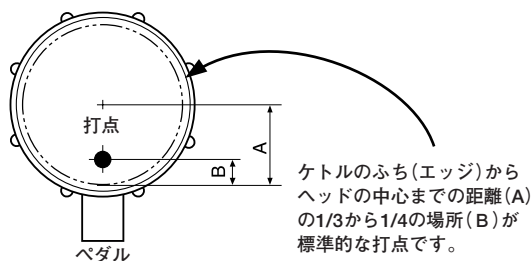
ティンパニのサイズによって、それぞれ適正な最低音(と音域)があります。下図のように、たとえば26インチのティンパニでは最低音をAにチューニングしたときに、最も無理のない状態でヤマハティンパニをお使いいただけます。

### ヤマハティンパニの標準的な音域



以下の手順**2**から**7**までについては、特に記述がない限り、ペダルのかかと部分を踏み下げたまま行なってください。

**2** ヘッドをたたいて音程を確認してください。下図はティンパニの打点(たたく位置)の標準例です。



● 設定したい音程より低い場合

→ 次の手順**3**に進んでください。

● 設定したい音程より高い場合

→ 7ページの手順**5**の図の順番に、チューニングボルトを同じ量ずつゆるめます。チューニングボルトをゆるめる場合は、まず、ゆるめたい量の倍ゆるめてから、半分戻す(締める)ようにします。設定したい音程よりも半音内低くなるまでゆるめたら、次の手順**3**に進みます。

**3** 各チューニングボルトの近くのケトルエッジから5 cm以内の内側をマレットで軽くたたき、どの場所が一番高く響くか調べます。

● この一番高い音が、設定したい音よりも高い場合(※2)

→ その場所のチューニングボルトだけをわずかにゆるめます。ゆるめる量は1/8回転から1/16回転位です。また、チューニングボルトをゆるめる場合は、まず、ゆるめたい量の倍ゆるめてから、半分戻す(締める)ようにします。ゆるめたら、先程のように軽くたたいて調べます。

● この一番高い音が設定したい音よりも低い場合

→ 次の手順**4**に進んでください。

**4** 一番高い音に合わせて、他のボルトを少しずつ(1/8回転から1/16回転位)締めていきます。ただし、ボルトをひとつ締めると、その隣や向かいのボルト付近の音程も上がりますので、一番音の低い場所のボルトを少し締めたら、各ボルト付近の音程を再び確認し、一番音の低い場所のボルトを少し締める……というように繰り返します。基準とした一番高い音のボルトには触れないようにします。



**5** 締めすぎたボルトは、手順 **3** (※2)の要領でゆるめます。すべてのボルト付近の音程がある程度同じになったら、ペダルを2~3回往復させます。

**6** すべてのボルト付近の音程が完全に同じになるまで、手順 **3** から **5** を繰り返します。

**7** 手順 **2**の要領でヘッドをたたいて、音程を確認します。

● 設定したい音程より低い場合

→ すべてのボルトを同じ量ずつ(1/16回転以下)締めて、音程を合わせます。

● 設定したい音程より高い場合

→ すべてのボルトを手順 **3**の※2の要領で、同じ量ずつ(1/16回転以下)ゆるめて、音程を合わせます。

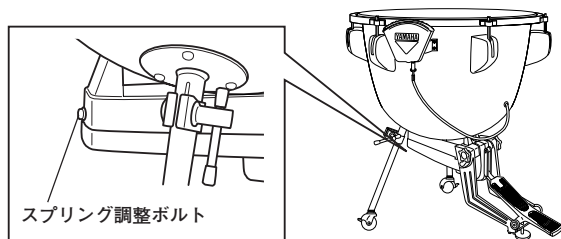
**8** 手順 **5**の要領でペダルを往復した後も音程が変わらないことを確認したら、完了です。(音程が変わったら、手順 **7**に戻ります。)

これで最低音を、希望する音程に合わせることができました。全体の音程を上げるには、ペダルのつま先部分を踏み下げます。

**9** 引き続き次の『ペダルの調整』を行ってから、『チューニングインジケータの調整』(10ページ)を行ないます。

## ■ペダルの調整

ペダルを往復させてから、以下のようにしてスプリング調整ボルトを回してください。



● ペダルのかかと部分を踏み下げて足を離すと、ペダルのつま先側がはね上がる場合、またはペダルのつま先部分を踏み下げるのにくらべて、かかと部分を踏み下げる方が重く感じる場合

→ スプリング調整ボルトを左(逆時計方向)に回してください。

● ペダルのつま先部分を踏み下げて足を離すと、ペダルのかかと部分を踏み下げるのにくらべて、つま先部分を踏み下げる方が重く感じる場合

→ スプリング調整ボルトを右(時計方向)に回してください。

スプリング調整ボルトは、付属のスプリング調整レンチで回します。一度に何回も回さずに、2回転ごとにペダルを往復させて、様子をみながら調整してください。

### ⚠ 危険

ペダルの下やベース部分のすきま、可動部分には、絶対に手や足を入れないでください。ペダルにはさまれて大けがをすることがあります。

### ⚠ 注意

スプリング調整ボルトは、一度に3回転以上ゆるめないでください。ペダルのつま先側がいきにくくなる場合があります。

### ●ペダルバランススプリング機構

ヤマハ・ペダルティンパニは、音程を変えるメカニズムに、独自のペダルバランススプリング機構—ヘッドの張力とバランスによって、任意の音程を得る方法—を採用しています。

ペダルを動かすとヘッドの音程は変化します。また、どの位置でペダルから足を離しても、その時定まった音程は変化しません。

# チューニングインジケータの調整

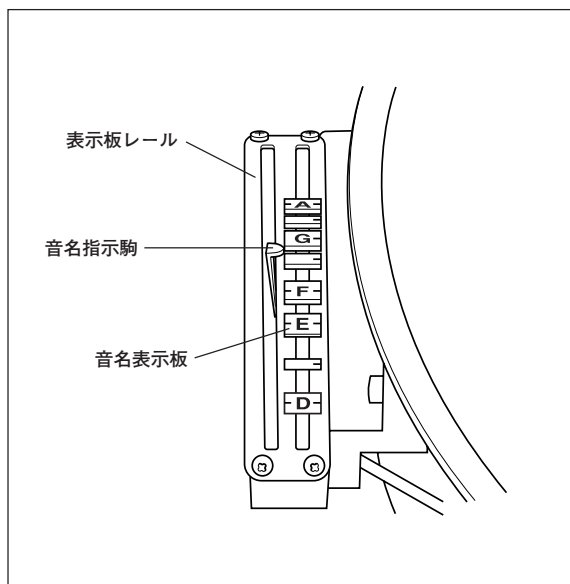
チューニングインジケータは、チューニングペダルを踏むことによって変わるヘッドの音程を、視覚的に表示するものです。チューニングが完了したら、音名表示板を正しい位置にセットします。

**1** 最低音にチューニングした状態で、インジケータの音名指示駒が、表示板レールのペダル側の一番端または端から10mm位の位置にあることを確認してください。

※ そうでない場合は、『音名指示駒(針)位置の合わせかた』の手順に従って調整してください。

**2** チューニングインジケータの音名指示駒(針)が示す位置に、一番下の音名指示板(26インチではA:『ヤマハティンパニの音域』(8ページ参照))を移動させます。

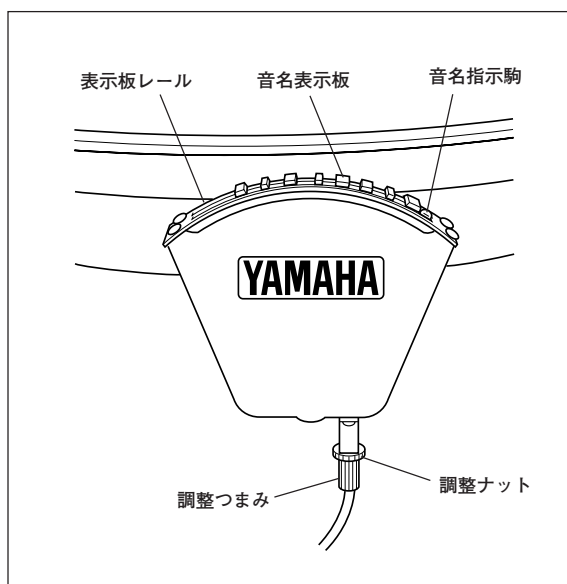
**3** ペダルで最低音から順に各音程にチューニングしてゆき、そのつど音名指示板を指示駒(針)の位置にスライドさせて合わせます。



## ■音名指示駒(針)の位置の合わせかた

最初に調整ナットをゆるめてから、以下の手順で調整つまみを回してください。

- 最低音にチューニングした状態で、インジケータの音名指示駒(針)が端に振り切ってしまう場合  
→ 調整つまみを左に回し、音名指示駒(針)を最低音の音名表示板に合わせます。
- ペダルを踏み込むまでに、音名表示駒(針)が端に振り切ってしまう場合  
あるいは、最低音にチューニングした状態で、指示駒(針)がレールの一番端付近まで来ていない場合  
→ 調整つまみを右に回し、音名指示駒(針)の位置を調整します。



# ヘッドの交換

1 チューニングボルトを交互にゆるめます。

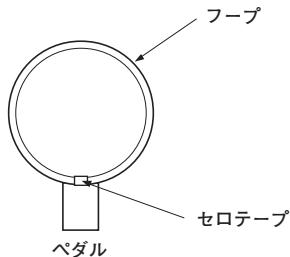
## ⚠ 危険

チューニングボルトをゆるめる(ヘッドをゆるめる)際、絶対にペダルに手を触れないでください。また、ペダルの下やベース部のすきま、可動部分にも絶対に手や足を入れないでください。スプリングの力でペダルが急に動き、大変危険です。

2 チューニングボルトをはずした後、フープのペダル側にセロテープ等で印を付けることをおすすめします。セロテープ等で印を付けることでなじんでいるフープをまた取付ける際に、同じ位置に取付けることができます。

その後にフープとヘッドと一緒に取りはずします。この時、チューニングボルトの紛失やゴミの付着にご注意ください。

また、チューニングボルトのネジ部にはあらかじめグリスが塗られていますので、手を触れないようにしてください。



※ ケトルのエッジに貼られているエッジテープに傷を付けないようにしてください。テープをはがしてしまったり、テープの傷みが激しい場合は、別売のティンパニ用エッジテープ(TPT-100)に貼り換えてください。

3 新しいヘッドとフープをケトルに乗せます。ヤマハティンパニ用ヘッドをご使用になる場合は、ヘッドのYAMAHAマークがペダルと反対側に来るように向きを合わせます。フープは、手順2で付けた印をめやすに、はずす前と同じ向きにします。ヘッドが軽く張るまでチューニングボルトを指などで交互に締めます。この際、ヘッドとフープがケトルの中心に位置するように注意をしてください。

次に、チューニングキーを使ってチューニングボルトを1/4回転ずつ締めます。これを最低4回繰り返します。

4 6～7ページの『ペダルティンパニをお使いになる前に』の手順5以降に従ってチューニングを行ない、さらに正確に音程を合わせたい場合は、8～9ページの『ティンパニの音程の合わせかた』に従ってください。

## ヘッド交換のめやす

ヘッドの寿命は、使用状態にもよりますが、1～2年です。音色がそこなわれないうちに、早めに取り換えましょう。2年以上張ったままのヘッドを使用すると、

- ・ 適正な音域にチューニングできない。
- ・ ペダルのバランス調整ができなくなる。
- ・ 本体の機構自体に損傷を与えてしまう。

などの原因となります。

ヘッドを軽く張った状態で、ヘッド面が波打っていたり、凹凸が見られたら、交換の時期です。